

# 産学連携事業「社会スタディの場」の実験構想について

平成25年3月13日

産学連携プロジェクト推進委員会

## 1. 目的

日本は過去において高度な成長を遂げてきたが、経済・財政の危機、少子高齢化、雇用環境の悪化、国際競争力の低下など地球規模で激変する社会にこれまでの成長モデルは通用しなくなった。これからは、精神的豊かさや生活の質の向上をもたらす持続可能な活力ある「成熟社会」を目指すことになる。しかし、その目指すモデルはまだ世界に見当たらない。地球規模で抱える課題を克服する国として、日本は新たな成長分野を創出し、世界の国々との連携・協調の中で再生していくことが求められている。

そのような中で、未来を切り拓く志のある若者が希望と夢を自ら描けるきっかけをもたらすことができるよう、情報通信技術を活用している産業界の将来像、社会的な役割、今後の課題などの業界情報を分かりやすく説明し、意見交流する中で、国・社会の発展に情報通信技術の果たす役割の重要性に気づきをもたらし、早い段階から興味・関心を抱かせて学びに目的意識を持って取り組めるよう意欲を喚起する。

## 2. 対象

高校生、大学生とする。但し希望があれば高校教員、大学教職員の参加も考慮する。

インターネット等で公募する。その際、志のある若者を選定するため、小論文（200文字）を提出させる。

\*第1回（平成25年度）は実験として、大学生を対象に実施する。

\*申し込みはネット上で行い、締め切り後に委員会で小論文を審査、参加者を決定する。

## 3. 参加者の募集

- (1) マスコミに本事業の趣旨、意義について案内し、マスコミを通じて周知、公募する。
- (2) 大学、短期大学に本事業の趣旨、意義、参加者募集を案内し幅広い媒体で学生への周知と参加募集をお願いする。
- (3) 本協会の委員、サイバーFD研究員に本事業の趣旨、意義、参加者募集について案内し、関係の学生への周知と参加募集をお願いする。

## 4. 構想のイメージ

- (1) 実施時期

\*平成25年9月10日～15日頃を想定し、早めに参加募集を行う。

- (2) 場所

新宿住友ホール：東京都新宿区西新宿2-6-1（産学連携人材ニーズ交流会と同じ場所）

(3) 参加者

大学生と大学教職員の合わせて 150 名程度とする。

(4) プログラムの内容

世界の動き、産業界の将来像、社会的役割、今後の課題などについて日本を代表する学識者、有識者、企業人から分かりやすく説明し、質疑応答、意見交換、交流を行う。

(5) テーマ及び有識者

現在以下の内容でテーマ、有識者を選定している。

① 多様な視点での新しい価値の創出

オープンイノベーションで多様な視点から新しい価値の創出を行っていくことの重要性をグローバルな視点で説明する。

② 新しい価値創造に取り組んでいる事例の紹介

230 以上の国で 1 億人が利用しているシステムの開発から運営に於いて世界中の人達の力を集め、今までにない新しい価値の創造を目指している取り組み、展開等、夢について説明する。

③ イノベーションに求められる学び

付加価値の高い、高度な「IT サービス」の実現が、日本経済の活力につながることに、理系のセンス（分析力）、文系センス（企画・立案力）、さらに教養やコミュニケーション能力が世界で通用する人材となるために必要であることを説明する。

④ 若者はグローバル時代にどう対処すべきか

ICT によって従来の権威や組織に代わって「個が輝く時代」が訪れていること。「オープン・エデュケーション」が米国を中心に一段と加速し、既成の教育の概念を変えつつあることなど若者がグローバル時代にどう対処すべきかの気付きを与える。

## 5. プログラムの進め方

(1) 各有識者からテーマごとに 30 分程度で分かりやすく説明いただき、その内容について有識者間で意見交流を行う。

(2) 学生の目線で学生が自由な視点で意見を言える雰囲気を作成する。学生の意見や質問をクリッカー等の携帯端末でリアルタイムにスクリーンに掲示し、学生の理解度に応じた対話を行う。

(3) 会場に参加できない学生、教員に情報を提供できるよう、個人情報に配慮して収録を行い、インターネットで公表する。

(4) プログラム終了後もネット上で自主的な学びが展開できる場づくりを支援する。